

# 後輩たちへのエール！ その13

2020年5月8日

## あなたにしかできないシゴトが、必ずある

◇今回は、宇佐見将太さん（理学療法士・プレゼンテーション指導者）のエールです！

### いま不安を感じているあなたへ

2020年5月、あなたはいま休校中の外出自粛生活のなか、家でネットやYouTubeを見たり、ゲームをしたりしながら過ごしているのでしょうか？でもそこは関高生、「さすがにやばいな」と机に向かっているのかもしれませんがね。

「早く以前のような生活に戻りたい」と思うかもしれませんが、僕は前のような生活にはもう戻れないと思っています。なぜなら、今回のコロナ騒動の前から、既に世界は大きく変化していたからです。とくに日本は、少子高齢化と人口減少、財政の悪化などたくさんの課題を抱えていて、今回のコロナウイルスの影響で、むしろ変化のふり幅はより大きく、速度はより速くなるはずですよ。

「学校は？大学は？将来の仕事は？自分の人生はこの先、どうなっちゃうんだろう？」

あなたもそんな不安を感じているのではないのでしょうか？

でも“たったひとつのこと”を信じて、心身ともに健康で生きている限り、あなたの未来は絶対大丈夫だと、僕は本気で思っています。関高校在籍中、完全な落ちこぼれだった僕でも、こうして社会のなかで役割をいただいて、かわいい三姉妹を授かって幸せな家庭を築くことができているんだから、きっと間違いありません。

ではその、“たったひとつのこと”とは一体何でしょう？

それは、「あなたにしかできないシゴトが、必ずある」ということです。

### 落ちこぼれ高校生

僕自身、高校生の頃はそんなことはまったく意識してなくて、それどころかろくに勉強もせず、成績は下から数えられるくらいの最低レベル。充実した学校生活とは程遠い3年間で

した。

でも唯一貫いていたこともありました。それは「将来、理学療法士になって、小児のリハビリテーションに携わりたい。」という夢でした。これは中学生のときに、僕自身が手術やリハビリテーションを経験してから持ち続けていた夢でした。しかし、当時の僕には国公立や四大の医学系理学療法学科を狙えるレベルの学力と人間性があるはずもなく、医療系専門学校という道を選択しました。ベストを尽くしたわけではないので、悔いがないといえば大嘘ですが、それほど強い興味をもてるものは理学療法士だけだったので、大半が大学に進学する関高校でも、人とは違う道にまっすぐ進めたこともまた事実でした。

### 理学療法士としての病院勤務



3年間の学生生活を終え、国家試験に合格し無事に理学療法士になったわけですが、その頃には世の中は大きく変わっていました。少子高齢化の影響で、小児に携われる施設は相対的に減少しており、採用試験の倍率はとて高くなっていたのです。結局、小児専門の施設で働くという願いを叶えることはできず、地元の一般病院に就職することになりました。

しかし、病院勤務時代には、病棟、介護施設、訪問リハビリなど幅広い分野を経験し、地域医療の基礎を広く学ばせていただきました。そして東日本大震災での JMAT としての災害派遣活動。そんなひとつひとつの経験から、なにか自分にしかできないシゴトがしたいと思い始めました。

## プレゼンテーション指導者として Apple でイベント開催



医療業界で働いていると研修や学会などがとても多いのですが、情報を伝える側の手法には多くの課題があることにふと気がつきました。それ以来、独学でプレゼンテーションを学び始めました。当時、医療業界でプレゼンテーションを学んでいる人はほとんどいなくて、同僚にも「何やっとするの？笑」と失笑されたのを覚えています。しかし、その魅力にどっぷりとハマってしまい、休みの日や寝る間を惜しんではたくさんの機会に自分から挑戦し、いろいろなご縁をいただくうちに、Appleストアのイベントとして、プレゼンテーションセミナーを開催させていただくことができました。以来、プレゼンテーション指導者として学生や企業経営者様のプレゼンをサポートさせていただいています。

### 「伝える」という“新しいシゴト”へ

現在は、フロンティアク・デザイン株式会社というベンチャー企業で、理学療法士としての現場業務だけでなく、デイサービス向けのアプリケーションの開発やコンサルティング事業、講演活動などで全国を飛び回り、また、個人としてもプレゼンテーションのサポートやプロデュース、セミナーなどを行っています。

いまの自分の“シゴト”を一言で表すことは難しいですが、「超高齢社会を豊かにする新しいアイデアを生み出して伝えること。また、そんなアイデアを伝える人をサポートすること」だと思っています。



興味のあることを、とりあえずやってみる。

高校生の時に思い浮かべている自分の将来の仕事像や、憧れの先輩方のワークスタイルは、実はあまり当てになりません。皆さんが働き始めるころの社会はまた大きく変わっているし、あなたが就こうとしている仕事は近い将来なくなってしまうかもしれません。でも、これからあなたが情熱をもって経験する挑戦や成功、失敗、そのすべてが組み合わさっていくことで、あなたにしかできない“シゴト”にきっと巡り合えると思います。だからこそ、なんでもいいからいま興味をもっていることに、まずは飛び込んでどっぷりハマってやるのが大切だと思うし、もし飽きずにやり続けられるなら、そのときはまったく“新しいシゴト”を生み出すチャンスです。そんな“シゴト”が見つかったら、どれだけ世の中が変化しても、逆に世の中があなたを必要としてくるはずです。

伝えるチカラが必要になったとき

これから素晴らしい経験をたくさん積み、あなたにしかできない素敵な“シゴト”を見つけ、社会の役に立とうとするとき、必ず必要になってくるのが「伝えるチカラ」です。どんなに素晴らしいアイデアでも相手に伝わらなければ意味がありません。もしあなたが「伝えるチカラ」に困ったら、そのときはあなたを全力でサポートさせてください。それがいまの僕の、自分にしかできない“シゴト”だと思っています。

Email : [shotausami@icloud.com](mailto:shotausami@icloud.com)

Facebook URL : <https://www.facebook.com/shota.usami.5>